

『幻の都』ハンピ大遺跡と黄金のゴアからマイソール王国への旅

ご旅行期間とご旅行代金 [旅行代金には燃油サーチャージが含まれております]
 2024年 2月26日(月)発～3月07日(木)着…¥598,000 お一人部屋利用追加料金 ¥89,000



ハンピ・バザール地区(寺院地区)

◆**ヘーマクータの丘**
 この丘は、ヴィジャヤナガル王国の都が置かれる前から、土着の神が祀られる祈りの場でした。そのパンパー女神のちにシヴァ神の夫人ヴィールパークシャーであるとされ、ヒンドゥー寺院となりました。ジャイナ教も保護した王により、ヴィジャヤナガル王国の時代にはジャイナ教寺院としても使用されています。一枚岩から彫られた寺院は素朴さの中にも、長い年月の間の祈りの数に相当する力強さが感じられます。

◆**ヴィールパークシャー寺院**
 南インド建築の特徴である、階段状になった塔門(ゴプラム)の美しさと高さ(50m)に目を見張ります。15世紀以来、何度も修復が繰り返され、現在も遠くからこの地を訪ねる人が少なくない神聖な祈りの場です。

◆**ヴィットラ寺院**
 ハンピ遺跡のハイライトです。彫刻の美しさからヴィジャヤナガル芸術の最高傑作といわれ、また「音楽を奏でる寺院」として、神秘性も持ち合わせています。この場所では、結婚式の後の盛大な披露宴など、数々の祝い事が行われました。「音楽を奏でる」とは、支柱を軽くたたくとその振動が寺院全体に広がり、支柱に耳を当てるとそこからは指の動きも感じられる音色が伝わるためです。ガルダの像が祀られた寺院の内庭には、石造りのガルダの荷馬車があります。到底動きそうもない石の車は、向きを変える時、実際に車輪が動いたと言われています。壁、支柱、天井のどこを見てもその美しい彫刻・レリーフの数々に圧倒されます。綿花と香辛料の交易が盛んだったヴィジャヤナガル王国には東西から商人たちがこの地を訪れました。レリーフの中には中国商人の姿や、商人たちの足であった動物たちの姿も見られます。

ハンピ・カムラープラム地区(王宮地区)

この地区は、美しい石壁に囲まれています。すべてはあたり一面からの巨石を切断して造り上げたものです。チーク材で建てられていた宮殿は、土台のみが残されています。

◆**ロータス・マハル**
 ヒンドゥー様式とイスラム建築のドーム型アーチを融合した女性的な繊細な造りの宮殿です。涼しい風をもたらすために天井部分にパイプを通し、地上からの引き上げた水を流す天然のエア・コンディションを作りあげた画期的な建築のひとつです。遺跡の名前、蓮(ロータス)はドーム型天井を見上げるとその中央に蓮のつぼみが彫刻されていることに由来します。暑さが厳しい日々、女性たちはこの憩いの場に集まり、ゆったりとした時を過ごしていました

『幻の都』ハンピ大遺跡

ハンピ遺跡が眠るカルナータカ州は、インドの南西に位置し、西はアラビア海に面しています。カルナータカ州のアラビア海側には、穏やかな砂浜が広がり、内陸に広がる高原地帯では米、バナナ、サトウキビなど多くの作物が栽培されています。

昔から多くの文化、宗教、王国がカルナータカ州を通過してきました。紀元前3世紀、インド最初の大帝国マウリヤ朝チャンドラグプタ王がジャイナ教に改宗したのちに隠居したインド最古の巡礼地もカルナータカ州にあり、州北部にはいくつもの初期ヒンドゥー寺院も設立されました。チャョラ朝やガンガ朝といった歴代の王朝もこの地で繁栄し、中でも11世紀から14世紀に繁栄した**ホイサラ朝**は、美しい建築群を残したことで有名です。

南インドはデリーの中央支配の下にあった北インドとは異なり、地方権力の群雄割拠が続いていました。11世紀から本格的にはじまったイスラム軍のインドへの侵攻は、北インドにおけるデリー・イスラム諸王朝の繁栄をもたらしました。14世紀にはその勢力を南へ拡大し、南インドの雄・ホイサラ朝はデカン高原で最初のイスラム王朝バフマニー朝に破れてしまいます。分裂状態にあった南インドは、イスラム軍に対抗するために**ヴィジャヤナガル王国**の元に結集し、イスラム教徒との戦いを繰り返しました。1336年にヴィジャヤナガル王国がその昔、土着の女神「パンパー女神」が祀られ、**巡礼の地であった土地に建設した都がハンピ**です。

当初は劣勢にあったヴィジャヤナガル王国ですが、バフマニー朝の内部抗争のおかげで国力を回復させると、カルナータカの大地の恵みとポルトガルによる航路発見以来の香辛料貿易もたまたま富により、南インドを一括する大王国へと繁栄していきました。永きにわたる暗黒の時代を生き抜いたヴィジャヤナガル王国は、イスラム教に対するヒンドゥー教徒最後の砦として**「インド・勝利の王国」**になったのです。

ハンピ遺跡には、約25平方 Kmの土地に約40の大遺跡が点在しています。ハンピの名は、土着の女神の名でもあり、この町の北側を流れるトゥングアバドラー川の古い名でもあるハンパーが由来となっています。ヒンドゥー教の勝利の王国・ハンピも最後はイスラム諸王国との戦いに敗れ、廃墟となり、歴史から姿を消します。ハンピの大地には、周辺の緑豊かな風景の中で異様に感じられる巨大な岩がいたる所に散乱しています。巨石の数々は、インドの大叙事詩『ラーマヤナ』の主人公であるラーマ王子の妻シタ姫を助けた猿軍将ハヌマーンが、悪魔との戦いの中で敵に向かって投げた石のついでとも言われています。一種独特な神話の世界を感じさせるハンピ遺跡は、1981年まで忘れ去られた土地でした。今明らかになった王国の姿は、華やいた彫刻の中に真の力強さも感じさせてくれます。



デカン高原の秘宝・ホイサラ朝芸術

南インド・バンガロールの西方に広がるマイソール高原の町や村に**ホイサラ王朝の寺院群**が残っています。ホイサラ朝は6世紀からこの地方を納めていた地方豪族が12世紀に興した王朝です。都はドーラサムドラ(現ハレービート)に置かれました。ホイサラ王朝はその精緻な彫刻で有名です。

ホイサラ朝の寺院群は、**建物を埋め尽くすように彫られた繊細精緻な彫刻**が特徴的で、ホイサラ建築を代表する2つの寺院がチェンネケーシャヴァ寺院とホイサレーシュワラ寺院です。ホイサラ建築には、ゴプラムのような高く聳え立つ塔は見られず、基壇の上に**低い星型の構造**が座しています。他の王朝のように寺院を巨大化することはなく、より多くの精密な彫刻を寺院に施すことに彼らは熱中しました。そのため、ホイサラ王朝の寺院群はレリーフを彫れる面積をより広くするために星形という風変わった形を採用しています。彫刻群のこの上ない精緻さが、規模の小ささを十二分に埋め合わせています。またこれらの彫刻からは、ホイアラ朝では音楽や舞踊芸術が非常に尊重されていたことがわかります。

かつてのホイサラ王朝の都**ドーラサムドラ(現ハレービート)**にある**ホイサレーシュワラ寺院**はホイサラ王朝で最大規模を誇る寺院で、外壁内壁のほとんどが数限りないヒンドゥーの神々、聖者、様式化された動物たち、ホイサラ王たちの生涯を現した埋め尽くされています。シヴァ神を祀った寺院で、ホイサラ芸術の卓越した例となっています。

ハレービードから少し離れた**ベルール**という町にある**チェンネケーシャヴァ寺院**は「**美男子シヴァ神**」という意味のホイサラ建築寺院です。この寺院で絶対に見逃せないのが寺院の外側、庇の下に並ぶ美しい女神像の数々です。繊細で可愛い女神が幾つも並び、見る者を飽きさせません。ホイサラ朝では女性の自由度が高かったことも読みとれます。

その芸術性の高さに比べて、日本での知名度が限りなく低いホイサラ朝建築の美しい寺院群。ぜひこの機会に足を延ばしてみてください。



ご利用予定ホテル

- デリー/ザ・ロイヤルプラザ、ザ・ハンズ、パークイン・バイ・ラディソ、マハガン・サロヴァール・ポリテコ、カントリーイン&スイツ、ゴールデン・チューリップ、スルヤ、タウラス・サロヴァール・ポリテコ
 - ゴア/ザ・フェルン・ハビタット、リージェンタ・セントラル、ブルー・リゾート、タートル・ビーチリゾート
 - バーダーミ/バーダーミ・コート、キリヤド・プレステージ、クラークス・イン、クリシュナ・ヘリテージ
 - ハンピ/ホテル・モーリッジ、クリシュナ・パレス、ホテル・ジエンX、クラークス・イン、キリヤド・サルヴェシュ
 - ハッサン/アショカ・ハッサン、アーリヤ・マンション、サトヤ・コンフォートモーリッジ・レジデンシー、サザンスター
 - マイソール/ホテル・サンデッシュ、ザ・プリンセス、リオ・メリディアン、サザンスター、エメラルド・クラークス・イン、リーゲンタ、ロイヤル・オーキッド・メトロポール、クラークス・イン
 - バンガロール/ザ・フェルン・レジデンシー、クラークス・イン、セレクト・バイ・レモンツリー、カントリーイン&スイート
- ※上記または同等クラスとなります。

※右記の時間は、すべて現地時間で表示されています。
 ※表記の「○」はお食事の有を示します。「→」は機内食、

都市名	スケジュールと見どころ/お食事と宿泊地
1 千歳羽田	スーツケース無料託送サービス ご自宅～空港 ■午前、千歳空港より国内線にて羽田へ[08:45発]。 ■着後、羽田空港より日本航空にてインドの首都ニューデリーへ[11:45発/18:20着]。 ■入国審査ののち、空港近くのホテルへ。 [→] [○] [ニューデリー-空港近郊泊]
2 ニューデリー	■午前、航空機にて、 海のシルクロード『黄金のゴア』 へ。 ■昼食はゴア料理・チキン・カフレアルとココナッツミルクのクレープケーキ・ペピンカです。 ■午後、 ポルトガル植民都市ゴア市内観光(世界遺産パナジ教会、17世紀のポルトガル要塞アグダ城、フランシスコ・ザビエルの墓所ボム・ジェズ・バジリカ、白亜の聖アレックス教会など) 。 [→] [○] [ゴア泊]
3 ゴアベウガウム	■午前、カルナーカタ州に入り、 中世ヒンドゥー建築揺籃の地・バーダーミ へ。 ■途中、13世紀ラッタ朝の都 ベルガウム(バラガーヴィ) にて、カルナーカタで最も古い要塞の一つ ベルガウム砦 や13世紀のジャイナ教寺院 カマルバサディ を見学します。 ■昼食はスパイシーな タンドゥーリ・ムルグ です。 [○] [○] [バーダーミ泊]
4 バーダーミ	■午前、バーダーミの 石窟寺院群 を見学します。バーダーミは、 目が覚めるような赤い砂岩 の山の麓に広がる6世紀のチャールキヤ朝の都で、踊るシヴァ神などヒンドゥー教の神々の彫刻が素晴らしい 石窟寺院群 です。 ■午後、彫刻芸術が素晴らしい アイホーレ遺跡 へ。アイホーレは、初期ヒンドゥー様式の様々な寺院が残るチャールキヤ朝の都市遺跡です。特に仏教寺院を模した ドゥルガー寺院の回廊の壁面彫刻 は精緻をきわめています。 ■また、ピラミッド型の南方様式と砲弾型の北方様式のヒンドゥー教寺院が混在する 世界遺産パッタダカル遺跡 を訪れます。パッタダカルは、チャールキヤ朝の第2の都で、 ヴィールパークシャ寺院 にはラーマヤナ物語やマハーバーラタ物語の戦場や恋人たちの様子など美しい彫刻が数多く残っています。 デカン高原の『覇者の都』 です。 ■夕刻、14～16世紀の 『時の止まった幻の都』ハンピ大遺跡 へ。 ≪ 世界遺産ハンピ連泊です ≫ [○] [○] [ハンピ泊]
5 ハンピ	■終日、ヒンドゥー王朝として、南インドの全域にわたって繁栄を極めた14世紀のヴィジャヤナガル王国の大都市遺跡 世界遺産ハンピ の観光です。音響の素晴らしさも有名です。 ■午前、美しい石壁に囲まれた ハンピ王宮地区 [カマラープラム地区]観光へご案内します(王妃の浴場、象舎、 ロータス・マハル (蓮の宮殿)など)。特に王室礼拝堂であった ハザラ・ラーマチャンドラ寺院 の無数のレリーフには驚かされることでしょう。 ■午後、 ハンピ寺院地区 [バザール地区]へご案内します。10世紀のピラミッド型屋根寺院がある ヘーマクータの丘 、高さ50mのゴプラムを持つ ヴィールパークシャ寺院 、ヴィジャヤナガル芸術の最高傑作 ヴィットラ寺院 を見学します。 ■その後、渡し舟を利用し、トゥングバトラー川を渡り、 アネゴンディ要塞 へ。そして、 ハンピ遺跡の全景が眺望できるハヌマン寺院の山に登り、幻の都市・ハンピの夕陽 をご覧いただけます。 [○] [○] [ハンピ泊]
6 ハンピ	■インドにおける宇宙計画の中心地・ ハッサン へ。 ■途中、岩山と背景にした11世紀の チトラドゥルガ城 や、 ベラヴァディ にて12世紀のヒンドゥー寺院 ヴェーラナラヤナ寺院 を見学します。 ■昼食はトマトベースの鶏の串焼き チキン・ティッカ・マサラ です。 [○] [○] [ハッサン泊]
7 ハッサン	■14世紀から20世紀にかけてマイソール王国の都であった 藩都マイソール へ。 ■途中、 ヒンドゥー芸術が最も豊かであった時代の最高傑作に数えられるホイサレーシュワラ寺院 を見学します。ベルールの チェンネケーシャヴァ寺院とハレービートのホイサレーシュワラ寺院 にご案内します。 ≪ マハラジャの都・マイソールに連泊です ≫ [○] [○] [マイソール泊]
8 マイソール	■終日、 マイソール市内観光 。優雅な マハラジャ宮殿(マイソール宮殿) 、プリンダバーナ庭園、街を一望する チャムンディーの丘と砂の博物館 、セント・フィロームナズ大聖堂、色鮮やかなデーヴァラージャ市場など、緑豊かな古都の滞在をお楽しみください。 ■昼食は、マイソール・ラッサムやマイソール・サンバル等の 『マイソール宮廷料理』 です。 [○] [○] [マイソール泊]
9 マイソール	■午前、カルナーカタ州の州都 バンガロール へ。 ■午後、まるでウィンザー城のような バンガロール宮殿 を見学します。 [○] [○] [バンガロール泊]
10 バンガロール	■午前、 『庭園都市』バンガロール市内観光(『赤い庭園』ラールバグ植物園、城塞とティーパー・スルタン宮殿) 。 ■昼食は、 カルナータカ式ビリヤニ です。 ■午後、航空機にて、デリーへ[13:55発]。 ■夜、日本航空にて、帰国の途へ[19:55発]。 [○] [→] [機中泊]
11 羽田千歳	■朝、羽田空港到着[06:35着]。入国審査・税関検査ののち、国内線にて、千歳空港へ。 ■千歳空港到着後、解散。 スーツケース無料託送サービス 空港～ご自宅 [→] [→] [→]

ご旅行条件

- 募集人数/14名様定員 ■最少催行人数/8名様 ■お食事/朝食9回・昼食8回・夕食9回
 - インド査証料・同取得手数料/¥9,850(別途必要) ■旅券残存期間/6ヶ月以上
 - 査証用写真/1枚要[5cm×5cm・カラー・背景:白色] ※事前にパスポートをお預かりします[残存期間:6か月以上]
 - 羽田・千歳空港利用料/¥4,430(別途必要) ■国際観光旅客税/¥1,000(別途必要)
 - 海外空港税・出国税/旅行代金に含まれております。 ■千歳空港より、全行程、社員添乗員同行
 - トランク往復無料託送サービス[ご自宅～空港～ご自宅]
- ※現地の場合によりスケジュールが変更される場合がございます。その場合でも極力日程に従って旅行サービスが受けられるよう万全の手配努力を致します。